



2012 ~ 2013 年度  
R I テーマ

# Peace Through Service 奉仕を通じて 平和を

国際ロータリー会長 田中作次 (国籍・日本)

2720 地区

## 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
ところ ホテルニューツルタ 〒874-0920 別府市北浜1-14-15  
TEL (0977) 22-1110 FAX 21-1019  
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F  
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
FAX (0977) 23-9019  
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>  
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事	高宮 勝美	理事	大島由美子	役員	会長	高宮 勝美	S A A	亀井 孝
〃	森園 伸也	〃	村津 忠久		副会長	森園 伸也	直前会長	亀井 孝
〃	木村 きぬえ	〃	近藤 賢司		幹事	前田 哲矢		
〃	森 宗明				会計	大江 知巳		

VOL. 25-30  
2013年2月19日

## 第 1131 回 例会

会報委員長 河村 貴雄

◆点 鐘 12:30

◆R S それでこそロータリー

◆唱 歌 学生時代

◆ゲスト 丸山 徹  
(べっぷ屋台村実行委員会代表)

◆ビジター 浦松 傳 (別府北RC)

◆出席報告 出席委員長 平野 英壽

本日 の 出 席	会 員 総 数	27 名
	出 席 者	19 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	2 名
	出 席 免 除	1 名
前々回 の訂正 2/5	欠 席 数	5 名
	出 席 率	73.08 %
	出 席 率	69.23 %
	事後メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	1 名
	出 席 免 除	1 名
	修 正 出 席 率	69.23 %

連 続	- 回
通 算	744 回 100 %

### ・メイクアップ

事前  
事後  
欠席 亀井、大島、河村、中尾、大江  
理事会承認 栴田、岐部  
出席免除 溝部



**会長の時間**

**会長 高宮 勝美**

皆さん、こんにちは。会長の高宮勝美です。

先週の15日、別府市立青山小学校へ堀新世代委員長と善行表彰に行っておきました。校長、教頭先生と暫らく歓談させて頂きましたが、私達の行っている事は大変に意義の有る事で子供達に良い影響を与えると評価を頂きました。

月末近くの25日月曜日には、今期、最後に成ります、別府市立山の手中学校の善行表彰に行きます。会員の皆さんも参加して頂けませんか？きっと、今までに味わった事の無い感動に出会う事と思います。

さて、私事に成りますが、2月17日の日曜日に、別府市役所、消防署、近所の自治会と共同で、津波災害の避難訓練を行いました。住民の方や消防、市役所、我が社の従業員、テナント関係先を合わせると、100人近くの方が参加された様でした。

別府湾を震源とした地震で有れば、5分程で津波の第一波が来ると予測されています。その時、10号線を走っている車、人は…。観光港に居る人達や食事をしている人々も、一人でも多くの人々が私共の建物に避難して無事でいてほしいと思いました。

今日は、ゲスト卓話として毎年12月31日に市内海門寺公園で開催される、別府屋台村実行委員会代表の丸山徹氏を迎えて、これからの別府について語って頂きます。大分県の発展は別府観光が元気で有る事が第一と皆さん考えているのですが、なかなか行動に移すのは難しい事です。丸山代表は何とか別府を元気にしたいと、年末の屋台村だけでなく、常設の屋台村造りを考えられていますので、卓話を聞き、アドバイスを与えて頂きたいと思います。

**幹事報告**

**前田 哲矢**

**—世界理解月間—**

1. 本日の卓話

「ゲスト卓話」

丸山 徹氏 (別府屋台村実行委員会 代表)

2. 本日のゲスト

まるやま とおる  
丸山 徹氏 (別府屋台村実行委員会 代表)

3. 2月15日(金) 10:30~青山小学校全校集会に於いて、「別府中央ロータリークラブ子どもの善行表彰」が行われ、高宮勝美会長、堀由美新世代委員長が出席され、表彰状と記念品を贈呈致しました。

4. 2月16日(土)~17日(日)の2日間にわたり、大分労働福祉会館「ソレイユ」に於いて「2012-2013年度クラブ研修リーダー育成セミナー」が開催され、後藤 隆クラブ研修委員長が出席されました。

5. 委員会報告

「狩野英子氏著書の件」鳴海淳郎会員より

6. お祝い

会員誕生日 津末美代子会員 (2月22日)

※記念品をお渡し致します。

皆 勤 森園 伸也会員(2月12日=5年)

中尾 誠会員(2月12日=5年)

7. 例会変更のお知らせ

日出RC 2月26日(火)の例会は、親睦例会の為 同日19:00~杉乃井ボウルに場所変更

大分中央RC 3月5日(火)の例会は、夜例会の為 同日18:00~大分オアシスタワーホテル3Fに時間変更

8. 次週の予定

「第4回クラブ協議会」

9. 本日の回覧

①宇佐・くにさき・竹田RC週報

②「2013-2014年度版 ロータリー手帳」購入希望

③「第4回クラブ協議会」出・欠席

10. 本日の配布

①週報No. 1129, 1130



スマイルボックス 副委員長 梶原 和朗

○高宮会長

別府屋台村の丸山徹さん、忙しい時に卓話を受けて頂きありがとうございます。楽しみにしています。

○村津会員

第26回べっぷ鶴見岳一気登山大会の参加者募集を2月1日から始めましたが、先週末で参加申し込みが1300名を超えました。

当日の晴天微風を切に祈ってスマイル。

○衛藤会員

丸山様ようこそ。卓話楽しみにしています。浦松様お久し振りです。どうぞごゆっくりなさって下さい。

○近藤会員

ロータリーソング、今日の歌はなつかしきペギー葉山の学生時代にしました。皆さん！！遠い昔に過ぎ去った若かりし頃の学生時代に思いをはせて、少し心が若返ったでしょ！

○津末会員

誕生日のお祝い有難うございます。私58才から年を取りません。何時迄もみんなから若いですನೆと言われたいから100才になってもいい女で有りたいものです。

○梅津会員

我が家のチビっ子たちの肌がかさかさしていて、鳴海先生のところに受診させていただきました。小児科でもらった薬では全然治らなかったのに1週間を待たずにみるみる良くなりました。子供たちのつるつる肌にスマイル。鳴海先生ありがとうございます。

卓話



「べっぷ屋台村」

屋台村初代実行委員長

丸山 徹

屋台村には「愛」があります。

出愛・ふれ愛・ゆずり愛。それと料理に「愛」。

屋台村に来れば、愛に出会えます。

観光地別府の古き良き時代にあった

「人情愛」の復活です。

ひとに触れ、べっぷの暖かさを感じてください。

べっぷ屋台村は、料理人が力を合わせて

つくりました。

別府ならではの、屋台料理を楽しんで頂けるよう

努力致します。

地元の皆様も観光客の皆様も

別府のおもてなし屋台をお楽しみ下さい。

何かが、あります……。





## 『ロータリーの友』のあゆみ

ロータリーの心を伝えつづけ  
結びつけて50年  
『ロータリーの友』50年のあゆみ

### 新しい雑誌の発行が決定



1960年11月号  
いくつかの問題が話し合われましたが、その1つに、日本の2地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有化するための機関誌として、企画されたのです。

第1回の準備会は大阪で、当時の星野行則ガバナーと露口四郎氏（共に大阪ロータリークラブ）が幹事役となって、東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブの代表者が出席して開催されました。

### 『ロータリーの友』と命名

新しい雑誌について本格的にいろいろなことが決められたのは、同年8月16日、岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合においてです。1953（昭和28）年1月から、毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定しました（岐阜での会合の様子は、本誌横組み20～22ページの「ロータリーの友創刊の頃」と題した座談会に掲載されています）。また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、二対一の割合で、横書きが採用されることになりました。戦後10年もたっていないかったという時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることのできるエピソードです。



1970年2月号

岐阜での会合で、広告を取ることが決定したものの、当初は発行部数が3,300部にすぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたというものの、まだまだ経済的には厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアン自らが走り回り、苦勞して広告を取ったという逸話が残っています。創刊号の富士山の表紙は、その後、『ロータリーの友』にも、何回か写真を載せましたので、ご存じの方も多いと思いますが、実はこの表紙、1月号から6月号まで、絵柄は全く同じものでした。北斎の「凱風快晴」という題の作品です。ちなみに、8月号から9月号は、広重の「舞子の濱」という作品で、表紙の写真や絵が毎月変わるようになったのは、創刊翌年の4月号からです。毎月同じ絵柄の表紙とはいうものの、それぞれの色が随分違っているのは、デザインでしょうか、当時、カラー印刷の技術が進んでいなかったため



1953年1月号  
（創刊号）



1965年5月号

でしょうか。

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。ページを開いていくと、横書きの中に、突然縦書きのページが出てきて読みにくいということで、1972（昭和47）年1月号から、左から開けると横書き、右から開くと縦書きの現在のような雑誌の形になりました。このときの表紙は、陣羽織で、横書きは前から見たところ、縦書きは後ろから見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。



1972年1月号  
縦書き・横書きに分かれた第1号



1987年1月号

### 国際ロータリー公式地域雑誌に

その後、1年間の試験期間を経て、国際ロータリー公式地域雑誌になりました。公式地域雑誌の要件はいろいろと定められており、また、時代とともに多少変化をしています。要件の1つに、「毎年、年度の始まる7月号には、「国際ロータリー（R I）会長の写真を掲載する」ということがあります。試験期間の始まった1979年の7月号が、R I会長の写真を表紙に掲載した最初です。したがって、日本で2人目のR I会長である向笠廣次氏（1982—83年度）は、表紙になっていますが、それ以前にR I会長に就任した東ヶ崎潔氏（1966—67年度）は、R I会長としては、残念ながら表紙に載っていません。ただし、それより早く、ガバナー時代の1957（昭和32）年8月号に、ほかのガバナーとともに登場しています。

はじめ、表紙以外はモノクロのみでしたが、1986（昭和61）年から、「ロータリー・アット・ワーク」（横組み写真のページ）のトップの取材ページ（当時は同欄の2～3ページが取材記事）をカラーに、縦書き、横書きの巻頭各8ページを二色刷りにしました。写真のページをカラーにし、2色刷りのページを入れると、当然印刷費は高くなりますが、この費用を捻出するために、用紙の厚さや種類を変更して用紙代を節約するなどの工夫をしています。時代の変化に合わせ、カラーページも増えています。



2001年11月号



2002年7月号  
リニューアル第1号

### 次の50年に向かって

創刊50周年を迎えるに当たり、これまでの良い伝統は継続しながら、新しい50年のスタートにふさわしい新鮮な『ロータリーの友』とはどのようなものか、2001年秋から検討に入り、年度初めの2002年7月号から誌面を一新しました。サイズをB5判（天地256ミリ×左右182ミリ）からA4変型判（天地280ミリ×左右210ミリ）に変更。カラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい『ロータリーの友』を目指しています。

これからも、『ロータリーの友』の歴史が刻まれつづけることでしょう。

『ロータリーの友』2003年1月号から